

音楽 I Tutti+ 検討の観点と特色 (17 教出 音 I 701)

項目	観 点	特 色 等
<b>1 内容の選択 ・程度</b>	*学習指導要領、 教科の目標を達成するために必要な教材 *基礎的・基本的 事項の理解や習得のための配慮	○学習指導要領に示された学習項目を網羅し、偏りなく構成されている。 ○Voice, Instruments, Appreciation, Dramas & Musicのブロックから構成され、「芸術科 音楽 I」の学習事項を獲得するために十分な教材数と内容である。 ○巻末の楽典、音楽史年表、ギターやキーボードのコード表は、生徒が自ら表現教材に記されている用語を調べたり、楽器の奏法を確かめたりする上で資料性が高く、また鑑賞教材の時代的な位置づけや背景を理解する上で有用である。 ○各教材の下に脚注が置かれ、作品の理解の補助となる。
<b>2 組織・配列 ・分量</b>	学習指導を有効に進めるための組織・配列・分量	○表現領域の歌唱においては、独唱・斉唱から合唱までさまざまな編成の教材が、学習活動を焦点化した題材のもとに集約されている。歌詞も日本語以外に英語、イタリア語、ドイツ語、中国語、朝鮮半島の言語まで幅広く網羅されている。特に日本の歌では、新しい歌から世代を越えて歌い継がれてきた唱歌まで新旧のバランスのとれた選曲となっている。器楽においては、リコーダーやギターの重奏や合奏に適した教材が、難易度の軽重をつけてバランスよく選曲されている。また、導入時に有用な手ほどきのページが設けられている。そのほか、身体を用いたリズム・アンサンブルなど、生徒の興味を引き出す活動もある。 ○創作は内容別に「音のスケッチ」の各コーナーにまとめられており、音楽のしくみを理解しながら、個性豊かに創作活動が展開するように配慮されている。 ○鑑賞領域では、曲の特徴や楽器、音楽史などの視点から題材が設けられ、編成に考慮しながら、バランスよく選曲・配置されている。また我が国の音楽では、雅楽の鑑賞や演奏に取り組む題材と、楽器や声の特徴を捉えやすいさまざまな鑑賞曲を集めたコーナーが設けられ、幅広い活用が期待できる。世界の諸民族の音楽では、日本の近隣の国々の音楽に目を向ける題材や、声と楽器に焦点化した題材が設けられ、音楽の多様なよさや美しさに生徒がふれることができるように配慮されている。 ○総合芸術については「Dramas & Music」のブロックにおいて、我が国、世界のさまざまな舞台芸術について紹介したページが設けられている。また、オペラやミュージカル、歌舞伎、人形浄瑠璃の作品を鑑賞したり、歌唱したりすることにより、学習が深まっていくように配慮されている。
<b>3 表記・表現 および使用上の 便宜</b>	*学習意欲を高めるための配慮、 用語・記号の取り上げ方および記述の方法 *印刷の鮮明度、 活字の大きさ、行間、製本など	○説明を要する用語、記号は楽譜下に、汎用性の高いものは巻末にまとめて掲載されている。楽典、楽式に関するものや作曲家の肖像なども表や図版を用いて見やすくまとめられている。またギターやキーボードのコードの一覧表もあり、資料として有用である。 ○ A4 判の判型で楽譜もゆったりして、音符や歌詞がたいへん見やすい。また紙質は白く、印刷も鮮明で、各所にあるカラーの図版や写真が美しく、生徒の学習意欲を高める。表紙はコーティングが施され、製本も堅牢である。 ○ CUD に配慮した色づかい、紙面構成が工夫されている。
<b>4 総合所見</b>	○音楽文化についての理解を深め、表現と鑑賞の能力を伸ばすのにふさわしい教材や写真・図版が精選されており、創造的な音楽の力、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てることが意図されている。 ○全般にわたり指導要領の目的に沿った学習内容を基本としながら、普遍的な価値をもつ教材と新鮮味のある教材がバランスよく配置されている。	